

男女共同参画活動フォーラムに参加して

田上病院 薬剤師；田中正比古

ファミリー薬局：田中 幸子

平成27年度の「男女共同参画活動フォーラム」に初めて参加し、心に残ったことを述べます。

主催は県の男女共同参画活動交流協議会で熊本県と熊本大学の共催で、これまで毎年2月にフォーラムは開かれている。仕事をもつ女性の参加が多いように見受けられ男性の参加が必要だと感じました。

今年の講演は前厚生労働事務次官の村木厚子さんで、自らこの問題を推進した立場と、冤罪で過ごされた大阪での半年の経験を、肩の凝らないトークで会場の笑いも誘いながら約1時間、聴衆の心を掴む素晴らしい講演を聞くことが出来た。村木さんの講演のテーマは「共同参画社会の実現で地域を元気に」で今後男女共同参画を強力に推進することが当面する少子高齢化社会の労働力の確保にも役立ち、女性の活躍の場も更に確保される見通しの話でした。

男女共同参画基本法は平成11年に施行され今年で17年が経過し、世間の理解は格段に進んだと言われ環境整備はほとんど出来、これから我が国の女性の管理職層がどこまで増加するのか楽しみでもある。しかしながら講演を聞いても、以下のような問題が有ると感じました。

- ①我が国は「歴史的に女性が家庭の外に出る事を良しとしなかった」ので、まだどこかに経営トップには古い考えがある。
- ②この問題を打破するべく共同参加基本法が整備されたが、全ての企業が未だこの問題を本気で対応するまでに至っていない。
- ③今のようなペースで女性管理職の任用が世界の水準に到達するのか、一番気がかりなことである。
- ④今後のフォーラムの目的は本音トークを優先し、働く女性の更なる意識改革も求められる。
- ⑤また行政は、待機児童問題同様、小学生の放課後の児童育成クラブの充実と現状に応じた対策が緊急に求められる。
- ⑥依然として働く女性の環境整備は不十分だし、少子化対策も含めた行政の本気度が求められる。

NHK朝ドラで「朝が来た」が高視聴率で話題を集めているが、女性の社会進出のテーマが現在でも問題になっている事は、本質的な問題は未だ解決されていないし、制度上の問題解決が本気でなされていない事によると改めて思いました。

村木さんは、女性管理職の心構えとして、①管理職はチャレンジ ②提案型の現状改善 ③個人のネットワーク確立 ④結果に悩まないなど、ご自身の経験を披露され参加者の大きな共感が得られ、働く女性の応援メッセージで会は閉じられた。

感想を簡単に述べましたが、今後のフォーラムの進め方も含め、更なる本会の発展を祈念しております。

以上